

2020年3月20日

訪問看護ステーションけいじん

災害委員 伊藤美智子

2019年度 災害委員会 活動報告（9月～3月）

1. 2019年（9月～3月）の主な活動内容

活動日	参加人数	活動内容
2019年9月18日		・第3回災害シミュレーション実施
2019年9月18日 （第24回）	11名	・第3回災害シミュレーション実施について各ブロック報告 ・シミュレーションの反省と今後の課題について ・9月18日天草ブロック・9月19日人吉球磨ブロック情報交換会について
2019年10月12日		・訪問看護従事者研修 避難所運営ゲームHUG実施
2019年12月7日 （第25回）	6名	・避難所運営ゲームHUGについて
2020年3月14日 （第26回）		新型コロナウイルス感染症対策による自粛要請のため休会 ・各ブロック委員より今年度の振り返りと来年度の意見や課題について文書にて提出

2. 災害シミュレーションの反省と今後への課題

連絡協議会加盟ステーションにおけるシミュレーション参加率 85.7%。

今回のシミュレーションの目的は、シミュレーションの流れの確認と様式1.変更の周知、スタッフへの周知、ペアステーションの確認であった。シミュレーションの流れはどのステーションも把握できており、被害状況やSOS有無について連絡網チャートに基づいて行動することができていた。ペアステーション同士の確認もとれておりFAX以外にPCのチャット機能やライン、電話を使いスムーズに連絡連携できていた。様式1.変更については、以前の様式を使用していたステーションがあり、今後も周知を行っていく必要がある。スタッフへの周知については、スタッフからのFAX送信ができていたステーションもあった。しかし、管理者不在により、すぐに対応できなかったステーションもあったため、スタッフも対応できるように体制を整える必要がある。そのほか、様式1.のSOS発信について、自分たちで対応できると判断してしまう傾向がみられた。以前説明してあった内容を再度確認していただき、小さなことでも発信していくよう周知が必要である。また、様式1.の発信元が2か所あるため分かりにくい、ペアステーションが2か所ある場合は枠が小さく記入しづらいといった意見、管理者交代により災害マニュアルの存在を把握できていないステーションやブロック会議に出席できていないステーションへのシミュレーションの周知をどのように行っていくか、報告終了時間や報告先の一点集中、報告の上げ方など課題も多数残った。しかし、今回要請していなかった様式2.に自ステーションでできることを記入し送信をされたステーションがあったことは、シミュレーションの一步先を捉え、共助ができる体制作りができているステーションの存在を確認する機会となった。